目　次

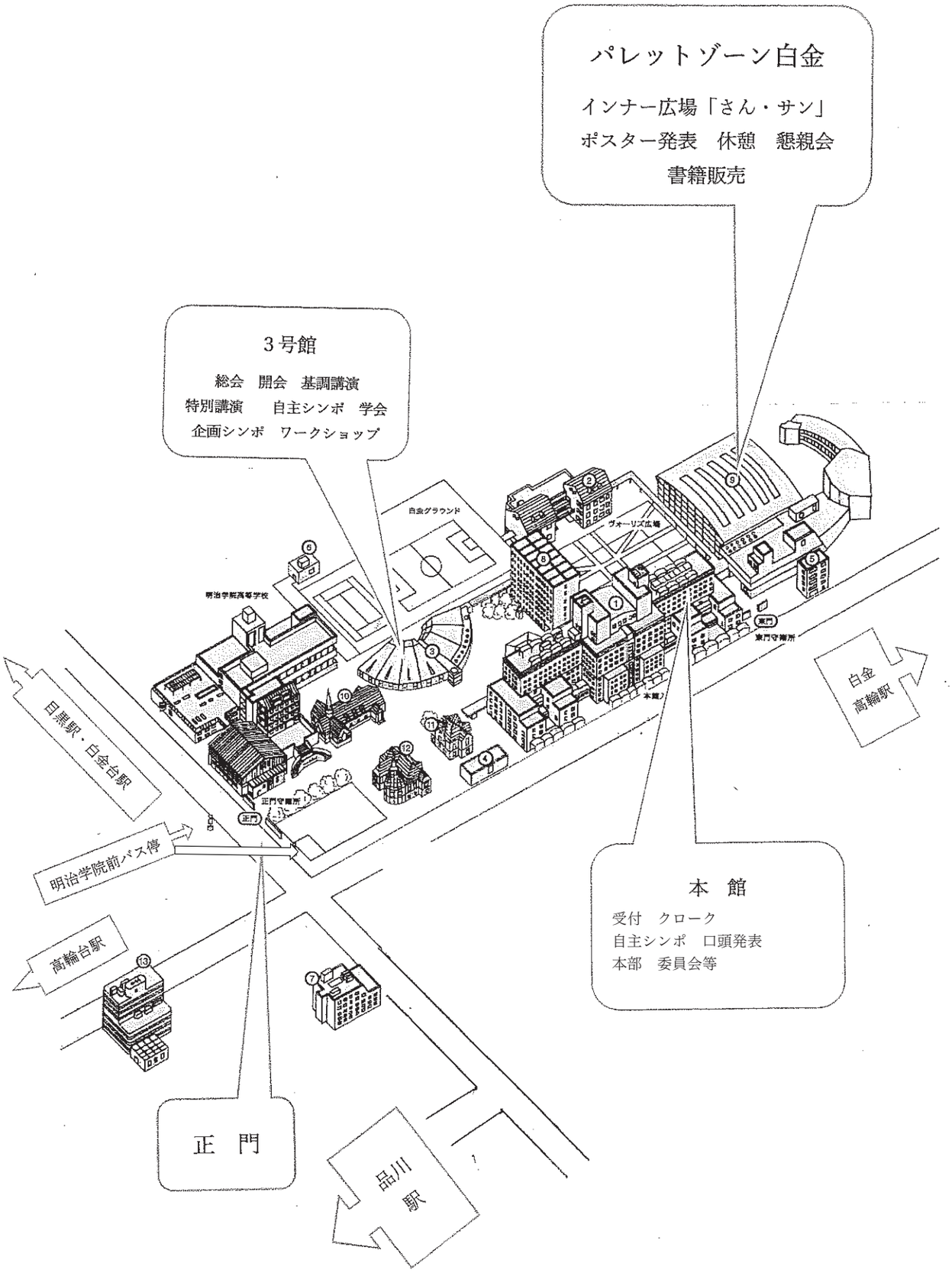
大会日程 …… 2-3
大学構内案内図 …… 4
大会会場見取図 …… 5-6
会場別プログラム 8月31日(土)・9月1日(日)　7
大会参加者へのご案内 ……8-11
自主シンポジウム関係者へのご案内 ……12
研究発表者へのご案内 ……13
基調講演 ……14
特別講演 ……15
学会企画シンポジウム …… 16-17
ワークショップ ……18
自主シンポジウム …… 19-22
口頭発表 …… 23-25
ポスター発表 …… 26-32

大会日程

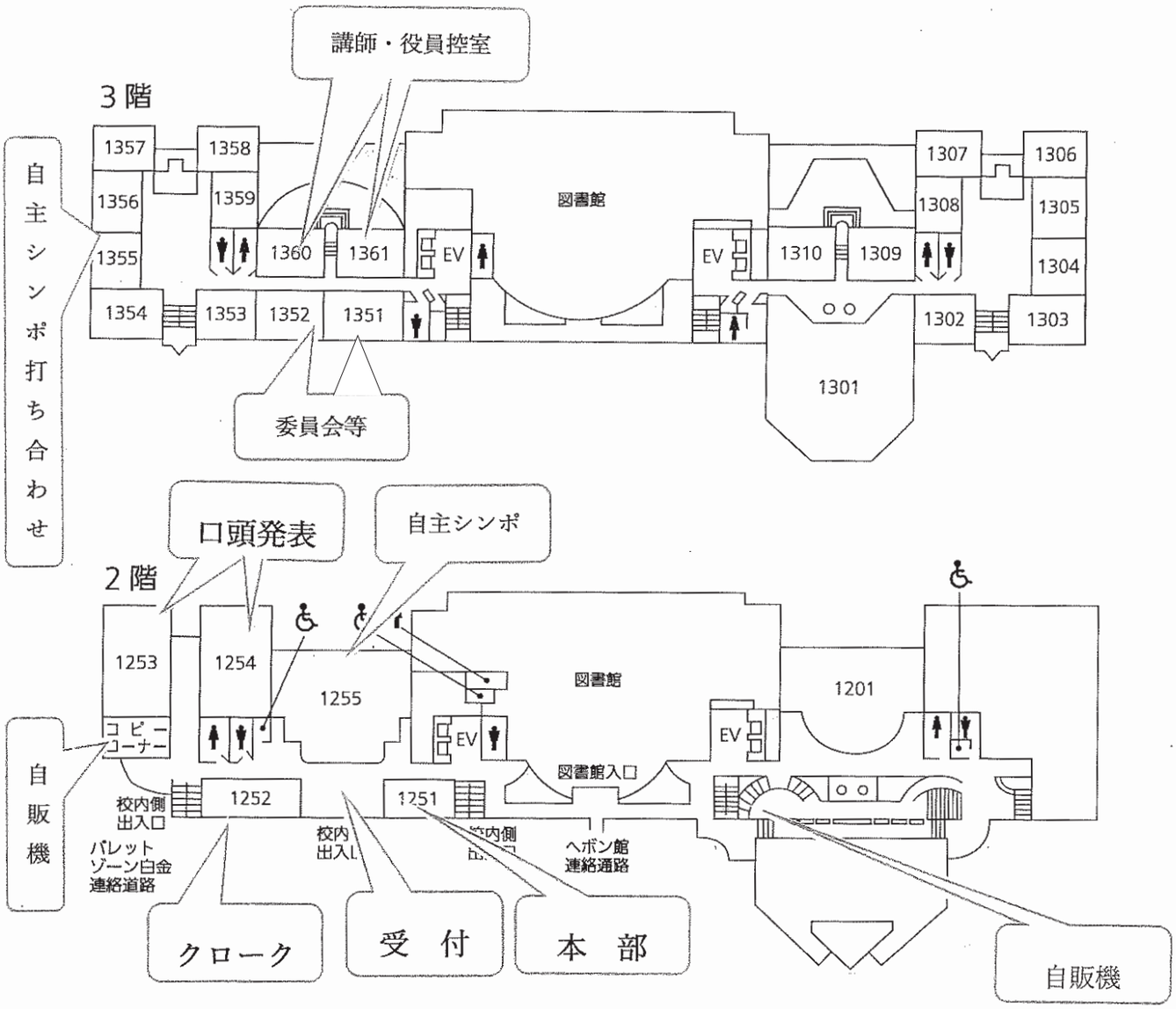
	8月31日（土）			
9：00 30	9：00～受付開始			
10：00	10：00～10：20 「大会長挨拶」宮﨑眞（明治学院大学）			
30 11：00	10：30～11：30 基調講演 「医療・福祉・教育の連携の重要性―設立20周年を迎えて―」 市川宏伸（学会会長）			10：30～14：30 インナー広場「さん・サン」 ポスター発表 （1～22） 在席責任時間 奇数ポスター 11：30～12：30
30 12：00	11：30～11：50 資格認定委員会 11：50～12：30 理事会・評議員会			
30 13：00	12：40～13：30 ○会務総会 ○挨拶・感謝状授与 ○次回研究大会大会長挨拶 ○実践研究賞、研究奨励賞の授賞式			在席責任時間 偶数ポスター 12：30～13：30
30 14：00 30 15：00	13：45～15：15 自主シンポジウム 1～3	13：45～15：15 口頭発表 ①　②	13：45～15：15 編集委員会	
30 16：00 30	15：30～17：00 自主シンポジウム 4～6	15：30～17：00 口頭発表 ③　④ （6題）16：50まで	15：30～17：00 ワークショップ 「自閉症スペクトラム研究」投稿に向けて―論文のまとめ方― 井上雅彦（鳥取大学）、近藤裕彦（あさけ学園）	
17：00	17：00～17：30 懇親会受付			17：00～17：30 参加証配布
30 19：00	17：30～19：00　インナー広場「さん・サン」 懇親会			

	9月1日（日）		
8：30	8：30 〜受付開始		
9：00 30 10：00	9：00 〜 10：30 特別講演 「心の健康に着目した学校での発達障害支援のあり方について」 神尾陽子（お茶の水女子大学）		
30 11：00 30 12：00	10：45 〜 12：15 自主シンポジウム 7 〜 10	口頭発表 ⑤　⑥ （6 題） 12：25 まで	10：30 〜 14：30 インナー広場「さん・サン」 ポスター発表 （23 〜 44） 在席責任時間 奇数ポスター 11：30 〜 12：30
30	12：15 〜 13：30　休憩		在席責任時間 偶数ポスター 12：30 〜 13：30
13：00 30 14：00 30	13：00 〜 14：30 自主シンポジウム 11 〜 13	13：00 〜 14：20 口頭発表 ⑦　⑧ （6 題） 14：20 まで	
15：00 30 16：00 30	14：45 〜 16：45 学会企画シンポジウム 「子どもの生涯発達と連携の課題」 司会：寺山千代子（星槎大学） シンポジスト：ソルト（当事者） 松田裕見子（保護者）、落合登（保護者） 川﨑葉子（むさしの小児発達クリニック） 指定討論者：砥抦敬三（元帝京大学） 近藤裕彦（あさけ学園）		
17：00 30	16：45 閉会（学会会長挨拶）		16：45 〜 17：30（受付にて） 参加証配布

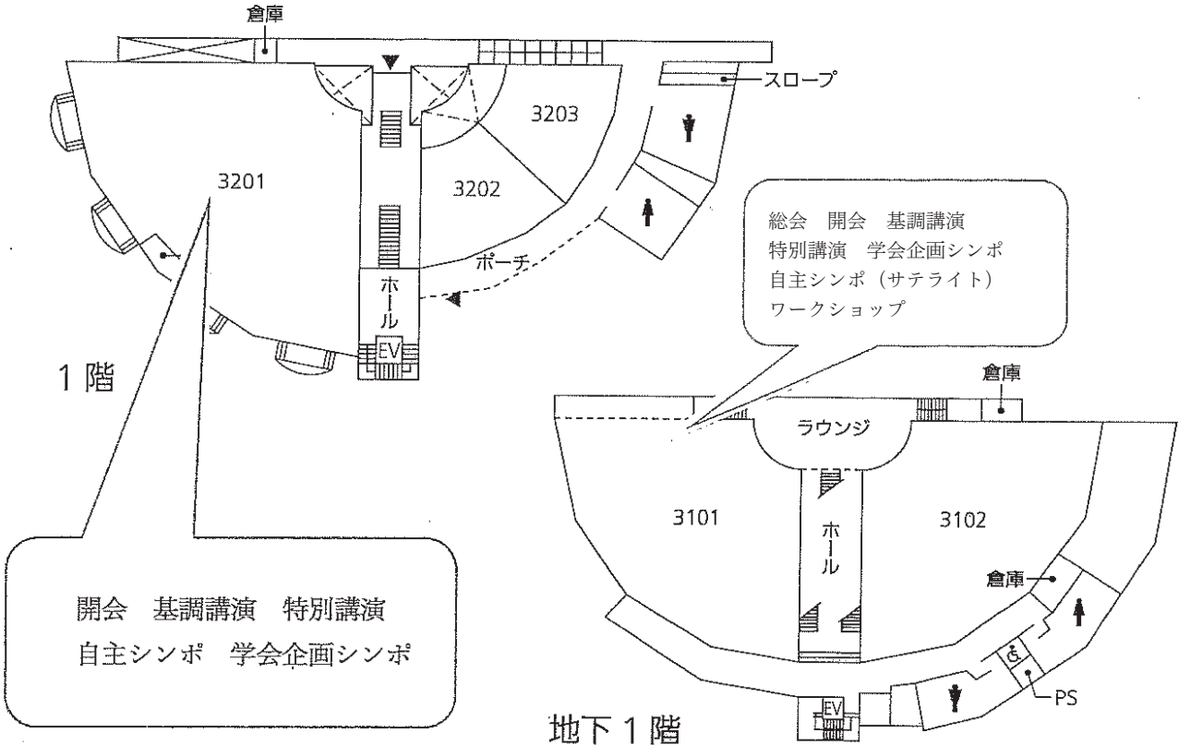
大学構内案内図


パレットゾーン白金
インナー広場「さん・サン」
ポスター発表　休憩　懇親会
書籍販売
3号館
総会　開会　基調講演
特別講演　自主シンポ　学会
企画シンポ　ワークショップ
白金グラウンド
ヴォーリズ広場
明治学院高等学校
東門
東門守衛所
正門守衛所
正門
本館
日黒駅・白金台駅
明治学院前バス停
高輪台駅
白金
高輪駅
品川
駅
本　館
受付　クローク
自主シンポ　口頭発表
本部　委員会等
正　門

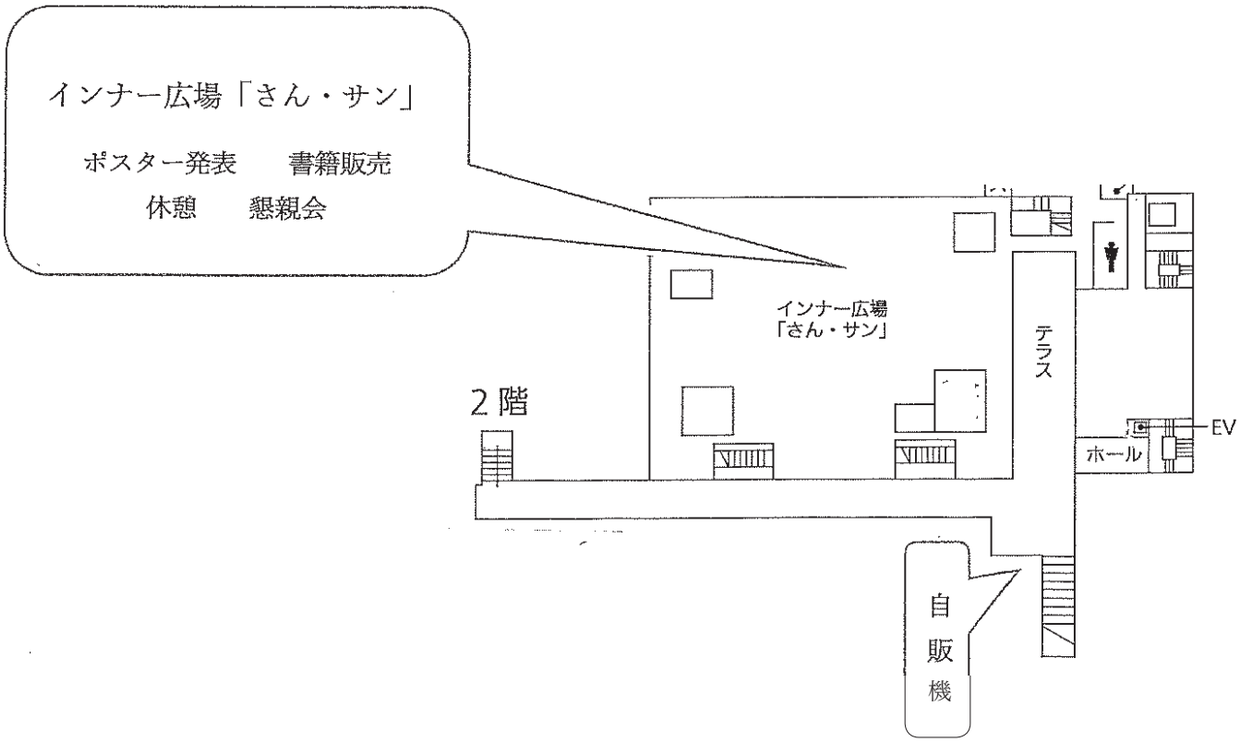
大会会場見取図・大学本館



大会会場見取図・大学３号館



パレットゾーン白金



会場別プログラム

8月31日（土）

館	階	教室名	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
			00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50
本館	2階	北ウィング		受　付									
パレットゾーン白金	2階	インナー広場「さん・サン」			ポスター発表　1～22							懇親会受付	懇親会
				書籍販売・休憩（飲食可）									
3号館	1階	3201			開会	基調講演		会務総会・挨拶・感謝状授与・次回大会・実践研究賞受賞式	自主シンポジウム3	自主シンポジウム4			
	地下1	3101								ワークショップ			
本館	1階	1101							自主シンポジウム2	自主シンポジウム6			
	2階	1251	大会本部										
		1252		クローク									
		1253							口頭発表①	口頭発表③			
		1254							口頭発表②	口頭発表④			
		1255							自主シンポジウム1	自主シンポジウム5			
	3階	1351											
		1352					委員会等		委員会				
		1353											
		1354		スタッフ									
		1355		打合せ室									
		1356		打合せ室									
		1357											
		1358											
		1359											
		1360		講師・役員									
		1361		講師・役員									
中庭・回廊	ヴォーリズ広場			休憩（飲食可）									

9月1日（日）

館	階	教室名	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
			00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50
本館	2階	北ウィング		受　付									
パレットゾーン白金	2階	インナー広場「さん・サン」			ポスター発表　23～44								
				書籍販売・休憩（飲食可）									
3号館	1階	3201		特別講演		自主シンポジウム7		自主シンポジウム13		学会企画シンポジウム			
	地下1	3101				自主シンポジウム10							
本館	1階	1101				自主シンポジウム8		自主シンポジウム11					
	2階	1251		大会本部									
		1252		クローク									
		1253				口頭発表⑤		口頭発表⑦					
		1254				口頭発表⑥		口頭発表⑧					
		1255				自主シンポジウム9		自主シンポジウム12					
	3階	1351											
		1352											
		1353											
		1354											
		1355		打合せ室									
		1356		打合せ室									
		1357											
		1358											
		1359											
		1360		講師・役員									
		1361		講師・役員									
中庭・回廊	ヴォーリズ広場			休憩（飲食可）									

大会参加者へのご案内

1. 会　場

・会場は明治学院大学の「本館」・「3 号館」・インナー広場「さん・サン」を使用いたします。
・受付は、本館２階の校内側出入口ホールで行います。大会第１日目（8/31・土）、第２日目（9/1・日）とも、正門からお入りになり、案内表示に従ってお進みください。
・会務総会、基調講演、特別講演、大会企画シンポジウムは、3 号館 1 階教室（３２０１）、3 号館地下 1 階教室（３１０１）で行います。ただし、３１０１教室は、モニターでの視聴となります。
・各種委員会、口頭発表は、本館２階及び３階の教室で行います。ポスター発表は、インナー広場「さん・サン」で行います。
・自主シンポジウムは、3 号館 1 階・地下 1 階、本館 1 階・２階の教室で行います。
・懇親会は、インナー広場「さん・サン」で行います。
・会場案内図は、この冊子をご覧ください。
・大学構内は、すべて禁煙です。また大学キャンパス周辺での喫煙もご遠慮ください。
・大会で使用している教室以外の教室には立ち入らないようお願いします。
・大学構内の食堂等は、夏期休暇中につき休業です。
・大会で使用している教室は，飲食可となっております。ただし PC 機器類周辺、「飲食禁止」の表示がある個所ではご遠慮ください。
・ごみ類は、原則お持ち帰りください。学内のごみ箱は、ご使用にならないようご協力をお願いいたします。

2. 受　付

・第 1 日目（8/31・土）、第 2 日目（9/1・日）とも、受付は本館（北ウイング）２階校内側出入口ホールで行います。受付開始時間は、1 日目は 9 時から、2 日目は 8 時 30 分からになります。予約参加・当日参加どちらの場合も、必ず一日ごとに受付を済ませてください。
・予約参加の方は、予約参加受付デスクで参加予約票のはがきを提示し、抄録集、ネームプレート等をお受け取りください。ネームプレートには氏名・所属をご記入ください。ネームプレートは、大会期間中は見やすい所にお付けください。
・当日参加の学会員の方（参加予約票／領収証のはがきをお持ちでない方）は、当日参加受付デスクにて、参加申込用紙・参加証発行申請用紙（希望者のみ）を受け取り、記人後参加費を添えて提出し、領収書・抄録集・ネームプレート等をお受け取りください。ネームプレートには氏名・所属をご記入ください。ネームフレートは、大会期間中は見やすい所にお付けください。

3. 費　用

・会員当日参加費　7,000 円　日本自閉症スペクトラム学会員の当日参加費です。
・会員特別参加費　3,500 円　学会員であり、学生や当事者の方を指します。大会当日、受付にて学生・当事者であることを確認できるものをご提示ください。
・臨時会員参加費　7,000 円（2 日間）　3,500 円（1 日のみ）　会員でない方の参加費です。
・臨時会員特別参加費　3,500 円（2 日間）　2,000 円（1 日のみ）　臨時会員特別参加費は、学会員ではない学生や当事者の方を指します。大会当日、受付にて学生・当事者であることを確認できるものをご提示ください。

4. 大会参加証について

・予約参加の会員は、学会開催中一日ごとに参加証を発行いたします。受付を行った本館２階校内側出入口ホールにて配布しますので、1 日目は 17 : 00 ～ 17 : 30 に、2 日目は 16：45 ～ 17 :30 に、忘れずにお持ち帰りください。取り忘れによる再発行や郵送はいたしませんのでご了承ください。

・当日参加の学会員は、学会開催中に一日ごとに大会当日受付デスクにて、参加証発行の申請をしてください。忘れずに一日ずつ申請してください。なお参加証は大会期間中ではなく後日郵送となります。

5. 会務総会

・大会第 1 日目（8/31・土）12 :40 ～ 13:30、３号館 1 階（３２０１）及び地下 1 階（３１０１）において会務総会を開催いたします。学会員の皆様はご出席ください。

6. 懇親会

・大会一日目（8/31・土）17 : 30 ～ 19 : 00、インナー広場「さん・サン」で懇親会を行います。当日も定員になるまでお申し込みを受け付けます。懇親会会場入口の懇親会受付にてお申込みください。懇親会受付は、17: 00 ～ 17 : 30、会費は 5,000 円です。

7. クローク・休憩室

・クロークは、受付を行った本館（北ウイング）２階校内側出入口ホールの隣１２５２教室です。お預けの荷物は一日ずつお引き取りください。利用開始時刻は、受付開始時刻からです。1 日目、2 日目ともに 17：30 終了です。懇親会に参加される方は、荷物を受け取り懇親会会場までお持ちください。なお、貴重品はお預かりできません。

・インナー広場「さん・サン」・中庭（ヴォーリズ広場）は、体憩スペースとして利用していただけます。飲食可です。

・大学内の通路にあるベンチならびに大会で使用している教室も飲食可です。ただし PC 機器類周辺や「飲食禁止」の表示がある個所ではご遠慮ください。

8. お弁当・お食事・飲み物

・本大会では、お弁当の事前注文はございません。 また学内の食堂等は休業です。

昼食は各自でご用意くださいますようお願いいたします。

・飲み物についても、学内にいくつか自販機がありますが、数に限りがありますので、あらかじめ最寄り駅周辺等でご調達の上、会場までお越しになることをお勧めいたします。

・ごみ類はお持ち帰りください。大学内に設置してあるごみ箱は、ご使用にならないようご協力をお願いいたします。

・昼食は、インナー広場「さん・サン」、本館３階、ヴォーリズ広場等、ベンチや会場として使用している教室等をご利用ください。PC 機器類周辺や「飲食禁止」の表示がある個所ではご遠慮ください。

9. ＡＴＭ

・学内にはございません。最寄り駅周辺の銀行やコンビニをご利用ください。

10. 書籍等の展示・販売

・インナー広場「さん・サン」で書籍の展示・販売を行います。

11. お呼び出し・スマートフォン等の使用

・会場でのお呼び出しはできません。また会場内ではスマートフォンや携帯電話の電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

12. コピー・印刷

・資料の印刷について、大会事務局では対応いたしません。 学内のコピー機はご利用いただけませんので、あらかじめ予測される必要部数を各自ご持参ください。

13. 障害者用トイレ

・3 号館 1 階に男女兼用の障害者用トイレがございます。必要な方は遠慮なくご使用ください

14. 撮影禁止

・個人的な写真撮影や録画・録音はご遠慮ください。

15. その他

・ご不明な点かありましたら、大会スタッフの名札を着用した者に遠慮なくお尋ねください。

16. 交通機関（会場アクセス）

①品川駅から
［JR 山手線・京浜東北線・東海道線・横須賀線・東海道新幹線 / 京浜急行線］
高輪口より都営バス「目黒駅前」行きに乗り、「明治学院前」下車（乗車約 6 分）
※徒歩約 17 分
②目黒駅から
［JR 山手線 / 東急目黒線 / 東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線］
東口より都営バス「大井競馬場前」行きに乗り、「明治学院前」下車（乗車約 6 分）
※徒歩約 20 分
③白金台駅から
［東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線］
2 番出口（白金高輪側 / エレベーター有）より徒歩約 7 分
④白金高輪駅から
［東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線］
1 番出口（目黒側 / エレベーター有）より徒歩約 7 分
⑤高輪台駅から
［都営地下鉄浅草線］
A2 番出口より徒歩約 7 分

明治学院大学
〒 108-8636
東京都港区白金台 1-2-37
⑥その他（自家用車の利用）
・学内及び周辺には、駐車場はございません。

自主シンポジウム関係者へのご案内

1. 時　間

・自主シンポジウムは 1 時間 30 分です。運営は企画・司会者に一任されます。

2. 打ち合わせ

打ち合わせをされる場合には、打合せ室（本館３階）をご使用ください。

3. PC 機器（重要：必ずお読みください）

①原則として、データは USB メモリでご持参いただき、会場設置の PC をご使用ください。
会場設置 PC の OS は Windows 7 、アプリケーションは Power Point 2016　です。

② PC の持ち込みは、事前に申請された方のみとさせていただきます。必ず電源アダプターをお持ちください。接続端子は VGA・D ー Sub15 ピンです。必要な場合は変換コネクターをお持ちください。変換コネクターは会場では用意しておりませんので、必ずご持参くださいますようお願いいたします。

〈注意！〉会場内の教卓 PC に接続しているケーブルは絶対に外さないでください。

③ PC を持ち込まれる場合でも、万一に備え、バックアップ USB メモリをご持参ください。

④会場設置 PC で利用できるアプリケーションは PowerPoint 2016 です。

・Power Point 2016 以前で作成されたデータでも利用可能ですが、画面にズレが生じる可能性があります。

・スライド画面の縦横比は、必ず標準設定（４：３）で作成してください。
ワイド画面（16：9）では正しく表示できません。

・Power Point に動画ファイルが添付されている場合は、会場 PC では映写できない場合がありますので、ご了承ください。

⑤ USB データは、事前に動作確認の上、ご持参ください。データを作成した PC 以外の PC にて動作をお願いします。

⑥大会 1 日目や当日午前中に、発表会場にて動作確認ならびに試写なさることをお薦めします。ご希望の場合は、大会スタッフにお気軽にお申し出ください。

4. 配布資料

自主シンポジウムにおいて配布資料がある場合は、企画者が 100 ～ 150 部をご用意ください。会場での印刷・コピーはできませんのでご了承ください。

研究発表者へのご案内

1. 発表資格

①筆頭発表者および連名発表者とも会員に限り、さらに 2019 年度の年会費を納入済みの方に限ります。

②筆頭発表者、連名発表者とも、大会参加費納人を必ず済ませてください。大会参加費未納の場合は、発表取り消しとさせていただきます。

③筆頭発表者での研究発表は、お一人 1 題に限ります。連名発表者はその限りではありません。

2. 口頭発表の方法

①進行と発表時間進行は座長に一任されます。発表時間は 1 題につき 15 分、質疑応答 5 分、計 20 分です。12 分で 1 鈴、15 分で 2 鈴(発表終了)、20 分で 3 鈴がなります。発表時間を厳守してください。

② PC 機器

PC 機器の使用ならびに注意事項については、前頁の（自主シンポジウム関係者へのご案内）「3. PC 機器」と同様です。必ずお読みいただき、それに従ってください。

③配布資料

配布資料がある場合には、発表者が 100 ～ 150 部をあらかじめご持参ください。学内のコピー機はご利用いただけませんのでご注意ください。個人情報の関係等で回収が必要な資料は、発表者が責任をもって回収・処分を行ってください。

3. ポスター発表の方法

①発表の認定

発表者は、発表時間中ポスターを掲示するとともに指定された時間在席し、参加者と質疑応答することにより正式発表とみなされます。

②掲　示

掲示用パネルは、横 90cm ×縦 180cm です。掲示パネルに番号が付いていますので、指定されたパネルにポスターを貼ってください。掲示にはテープ（各自で用意）を使用してください。画鋲は使用不可です。

開始時刻までにポスター発表会場（インナー広場「さん・サン」）に、掲示してください。ポスターの最上部に発表題目、発表者氏名（筆頭発表者に〇をつける）、所属を明記してください。約 2m 離れたところから全体が読めるようにしてください。

③掲示時間・発表時間

31 日（土）10:30 ～ 14:30 は、P-1 から P-24 までの発表者がポスターを掲示します。在席責任時間は、奇数番号の人は、11:30 ～ 12:30、偶数番号の人は、12:30 ～ 13:30 です。1 日（日）10:30 ～ 14:30 は、P-25 から P-45 までの発表者がポスターを掲示してください。在席責任時間は、奇数番号の人は、11:30 ～ 12:30、偶数番号の人は、12:30 ～ 13:30 です。

④補助資料

当日資料を配布される方は、各自で必要部数をご用意ください。個人情報の関係等で回収が必要な資料は、発表者が責任をもって回収・処分を行ってください。

⑤撤　去

指定された発表時間 10:30 ～ 14:30 は ポスターを掲示しておいてください。14:30 になったら、直ちにポスターを撤去してください。撤去されないポスターは、大会事務局の方で処分させていただきます。

基調講演

8 月 31 日（土）10：30 ～ 11：30
会場：3 号館 1 階教室３２０１、地下 1 階教室３１０１（サテライト・モニター視聴）

医療・福祉・教育の連携の重要性
―設立 20 周年を迎えるにあたって―

講演者：市川宏伸（日本自閉症スペクトラム学会）
司会者：宮﨑　眞（明治学院大学）

経歴等

1945 年生まれ。東京大学大学院薬学研究科修士課程修了、北海道大学医学部卒業。東京医科歯科大学神経精神科を経て、1982 年より東京梅ヶ丘病院に勤務。1998 年より同病院副院長、2003 年より同病院院長となり、2010 年より東京都立小児総合医療センター顧問となり、現在に至る。

現在の役職

国立発達障害情報・支援センター顧問、埼玉県立発達障害総合支援センター所長、日本自閉症協会会長、日本自閉症スペクトラム学会会長、日本発達障害ネットワーク理事長、自閉症児者を家族に持つ医師・歯科医師の会会長、世界自閉症啓発デー日本実行委員会会長　など多数。
著書に『広汎性発達障害の子どもと医療』（かもがわ出版）、『思春期のこころの病気』（主婦の友社）、編著に、『臨床家が知っておきたい「子どもの精神科」』（医学書院）、監修書に『子どもの心の病気がわかる本』（講談社）など多数。

講演概要

日本自閉症スペクトラム学会が設立され、間もなく 20 周年を迎える。「スペクトラム」をいち早く学会名にしたのは、前会長の中根晃先生であった。DSM- 5（米国精神医学会）、ICD-11（世界保健機関）では、自閉スペクトラム症（ASD）が診断名として使われるようになっている。

ASD を始めとする発達障害は、全生涯（縦軸）にわたる支援や合理的配慮が必要となる場合もあり、同時に社会の様々な分野（横軸）からの支援や配慮が必要となる場合もある。そのためには、医療、福祉、教育などいくつかの分野が一緒になって連携をする必要がある

特別講演

9月1日（日）9：00～10：30
会場：3号館1階教室３２０１、地下1階教室３１０１（モニター視聴）

心の健康に着目した学校での発達障害支援のあり方について

講演者：神尾陽子（お茶の水女子大学）
司会者：市川宏伸（日本自閉症スペクトラム学会）

講 演 者：神尾陽子（かみお　ようこ）
所　　属：日本学術会議　臨床医学委員会委員長　一般社団法人　発達障害専門センター　代表理事　医療法人社団神尾陽子記念会　発達障害クリニック　付属発達研究所　所長　国立研究開発法人　国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部　客員研究員　お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所人間発達基礎研究部門　客員教授
略　　歴：1983年京都大学医学部卒業、ロンドン大学付属精神医学研究所留学、京大精神神経助手、2000年米国コネティカット大学フルブライト客員研究員、2001年九州大学大学院人間環境学研究院助教授の後、2006年-2018年3まで国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・思春期精神保健研究部部長。現在は発達障害の臨床研究や教育・医療・福祉の多領域連携システム構築に携わる傍ら、診療活動や学校医および福祉施設の嘱託医を務める。2019年3月に（一社）発達障害専門センター（http://asd-dd.jp）を立ち上げ研修事業を通して保健、教育領域の発達障害支援の普及をはかっている。6月からは発達障害専門のクリニック（http://ddclinic.jp/）を始め、子どもから成人を対象とした診療サービスを提供している。
専門領域：児童青年精神医学、発達障害
所属学会：国際自閉症研究学会、日本精神神経学会、日本発達障害学会、日本自閉症スペクトラム学会、日本生物学的精神医学、日本精神保健・予防学会

講演概要

世界中で５人に１人の児童がメンタルヘルスの問題を抱えていると推定され、児童期に経験するメンタルヘルスの問題は成人後の社会的機能に影響を及ぼすことがわかっている。児童期のメンタルヘルスはこれまで考えられてきた以上に重要であるが、いまだ学校現場では見逃され、問題行動だけが注目されがちである。その結果、治療を受けるのは問題が数年間続き、こじれた後となることが多い。ますます重要となっている。すべての子どもに対応できる学校という場面だからこそさまざまな場面での観察が可能となるはずで、心の健康支援の場として学校が果たす役割は大きい。日々の行動観察に加え、言語や認知の発達、情緒面のアセスメントとそれにもとづく対応力のスキルアップが望まれる。当日は、事例や学校での実装経験を通して、学校でできるメンタルヘルスの予防や対応の工夫について述べたい。学校内での情報共有や校内カンファレンスの取り組みが学校の対応力を高め、ひいては医療を含め校外の専門機関のサポートを得やすくなるという、よりよい教育と医療の連携の在り方を事例を通して提案する。

学会企画シンポジウム

9月1日（日）14：45～16：45
会場：3号館1階教室３２０１、地下1階教室３１０１（モニター視聴）

子どもの生涯発達と連携の課題

司　会：寺山千代子（星槎大学）
シンポジスト：ソルト（当事者）
松田裕見子（保護者）
落合　登（保護者）
川﨑葉子（むさしの小児発達クリニック）
指定討論者：砥抦敬三（元帝京大学教職大学院）
近藤裕彦（社会福祉法人檜の里あさけ学園）

Key Word：自閉症スペクトラム症、連携、学校教育、社会福祉

【企画趣旨】

連携という言葉が使われて久しくなっているが、学校教育の場面、あるいは福祉施設の分野でも連携を取り入れ、成果をあげている地域も見受けられる。文部科学省では、支援が必要な児童生徒たちの調査結果を踏まえて、学校全体で取り組むように促すとともに、各校で、特別支援教育コーディネーターを指名し、内外の連携・調整機能を発揮する仕組みを整えてきた。平成28年には「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業」を立ち上げている。

厚生労働省でも、障害福祉サービスを利用する障害児及び学習上又は生活上特別な支援が必要な小・中・高等学校等に在籍する発達障害など障害の可能性のある児童生徒等に対して、都道府県、市区町村の各自治体においては、教育と福祉に関する部局、関係機関が連携して支援することを求めて、まずは文部科学省及び厚生労働省が連携し、各自治体における教育委員会や福祉部局の連携がより一層推進され、本人及びその保護者支援につなげるための連携・支援の在り方について検討する仕組みとして、平成29年に＜家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト会議＞を立ち上げている。

しかし、関係機関内の連携、あるいは他機関との連携の具体的な場面になると、必ずしもうまく機能していない例も多くみられ、連携の難しさ、課題がどこにあるのかを、いろいろな立場の方々からの報告や問題点をお話しいただき、まずは共有することから始めて、今後の連携の在り方を考えてみようというのが企画趣旨である。

当事者であるソルト氏は、高校を卒業するまでは、今から思えば児童相談所との連携が必要な家庭であったが、学校以外との連携はなく、大学に進んでから、保健師や校医と出会い、診察、投薬、カウンセリングを受けることができ、その後も発達障害者支援センター、若者サポートステーションなど多くの専門機関とも連携がとれ、定期的に相談できることで落ち着いて社会生活を送っていることを報告する。

保護者である松田裕見子氏は、御子息の出生から現在までの、発達の様子、小学校、養護学校（当時）などの教育機関、国立特殊教育総合研究所（当時）、東大デイケアなどの相談・指導機関にも関わりながらの成長の様子などをお話しいただき、37 歳から、福祉施設に入所したその後の様子を報告する。

保護者である落合登氏は、早い時期に広汎性発達障害の診断を受けた御子息の成育歴、医療歴、相談歴、教育歴、福祉支援歴について報告する。父親自ら指導員資格をとって、息子さんに様々な指導を行うなど、その努力の甲斐があって、星槎国際高校に入学・卒業。現在は、就労支援センターとのつながりもあり、N社の試用採用となる。

医師である川﨑葉子氏は、＜発達障害を支援する主な部門は 、福祉、教育、医療である。臨床の場が大学から地域の一線になり、福祉や教育との連携の一環として現場を巡回すると、目からうろこだった。そこには、「診断を正確に」などの課題ではなく、「拘ってるけど面白い」「お母さんが疲れてる」など診察室では話題にならない、しかし大事な生活応援の情報があった。診察室で視線が合わず笑わない子どもが、療育通園の場では、別人のように生き生きしていた。診察室で見えているものがいかに一部でしかないかを痛感した。以降、医療は当事者の応援団の歯車の一部にすぎない、ニーズをくみ取るために連携した療育業務が大事との認識に至った。昔よりもはるかに様々な連携がなされるようになり、制度としての連携も充実してきた。何より、当事者側がしっかり声を上げてニーズがわかりやすくなった。清水が小川となり大河となるように、制度を支える現場の顔の見える草の根の連携も繋がることを期待する。＞

砥抦敬三氏は、学校教育の立場から、発達障害の可能性がある児童生徒が、通常の学級に一定の割合で存在することへの対策として、①校長が特別支援教育コーディネーターを指名する。②支援が必要な児童生徒への「チーム学校」として対応するために、校内外の専門機関と連絡調整する。③生涯発達支援の観点から、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成が義務付けられていることを報告する。

近藤裕彦氏は、福祉の現状から、①関係諸機関の連携として、相談支援事業の大事さ、サービス担当者会議の存在、チームにキーパーソンが存在することの重要性を挙げ、②途切れのない生涯にわたる連携としては、発達総合支援室を中心とした支援システム、本人理解のための「ノート」の活用などについて提案する。

ワークショップ

8 月 31 日（土）15：30 ～ 17：00
会場：3 号館地下 1 階 3101

「自閉症スペクトラム研究」投稿に向けて
―論文のまとめ方―

編集委員長：井上雅彦（鳥取大学）
編集副委員長：近藤裕彦（あさけ学園）

自主シンポジウム

自主シンポジウム１　8 月 31 日（土）13：45 ～ 15：15　本館２階教室１２５５

CLISP-dd 発達検査の活用をめぐって（３）―アセスメントへの利用―

企画者：小林重雄（小牧発達相談研究所）
司会者：平野敏惠（東京医薬専門学校）
話題提供者：山本順大（小牧発達相談研究所）
高村哲郎（青陽須磨特別支援学校）
水野　恵（社会福祉法人ゆめネット）
岸本和美（岡山瀬戸高等特別支援学校）
指定討論者：矢口　明（名寄市立大学保健福祉学部）
寺山千代子（星槎大学）
多田裕夫（就労移行支援センター COC）

自主シンポジウム２　8 月 31 日（土）13：45 ～ 15：15　本館１階教室１１０１

ソーシャルストーリーＴＭの総合的支援の模索
―ソーシャルシンキングと CARER プログラムの視点を学ぶ―

企画・司会者：諏訪利明（川崎医療福祉大学）
話題提供者：稲田尚子（帝京大学）
諏訪利明（川崎医療福祉大学）
田口めぐみ（横浜市南部児童相談所）
指定討論者：高木一江（横浜市中部地域療育センター）

自主シンポジウム３　8 月 31 日（土）13：45 ～ 15：15　３号館１階教室３２０１

ペアレント・メンター活動を活性化させるために求められる支援は何か

企画・司会者：柳澤亜希子（国立特別支援教育総合研究所）
話題提供者：加藤　香（日本ペアレント・メンター研究会）
柳澤亜希子（国立特別支援教育総合研究所）
野田孝子（砂川市立病院附属看護専門学校）
指定討論者：日詰正文（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園）

自主シンポジウム４　8 月 31 日（土）15：30 ～ 17：00　3 号館 1 階教室３２０１

自閉症者にとっての入所施設の存在意義―社会的自立か入所支援か―

企画・司会者：楠　峰光（社会福祉法人　玄洋会）
話題提供者：森　博文（社会福祉法人　山城福祉会）
一山幸子（西日本短期大学）
指定討論者：髙木徳子（京都女子大学 OG 発達支援研究所）
刀根浩司（NPO 法人　いるか福祉会）

自主シンポジウム５　8 月 31 日（土）15：30 ～ 17：00　本館 2 階教室１２５５

特別支援学校教員を中心とした地域・職種を超えた事例研究会の実施・検討

企画者：石坂　務（横浜市立本郷特別支援学校）
司会者：佐藤大輔（川崎市立田島支援学校）
話題提供者：石坂　務（横浜市立本郷特別支援学校）
菊池俊輔（横浜市立本郷特別支援学校）
佐藤大輔（川崎市立田島支援学校）
指定討論者：田中裕一（文部科学省）

自主シンポジウム６　8 月 31 日（土）15：30 ～ 17：00　本館 1 階教室１１０１

自閉症スペクトラムの人たちへの生涯発達支援
―心理劇（サイコドラマ）の適用―

企画・司会者：髙原朗子（福岡発達障害療育研究所）
話題提供者：山根弘敬（福津子ども発達センター・さくら館）
池田顕吾（福岡市東区第 1 障がい者基幹相談支援センター）
松井達矢（やまと更生センター）
指定討論者：時田　学（日本大学）
髙原朗子（福岡発達障害療育研究所）

自主シンポジウム７　9 月 1 日（日）10：45 ～ 12：15　3 号館 1 階教室３２０１

自閉症児者の QOL を保障するトライアングル・エフェクトの連携モデル

企画者：米澤巧美（横浜市発達障害者支援センター）

司会者：河合高悦（鶴見大学短期大学部保育科）
話題提供者：角田正博（広島市こども療育センター）
平木真由美（京都市立特別支援学校）
指定討論者：西尾紀子（横浜市発達障害者支援センター）

自主シンポジウム８　9月1日（日）10：45～12：15　本館1階教室１１０１

ASD児と家族と地域をつなぐ―家族が地域で孤立しないためには―

企画・司会者：森戸雅子（川崎医療福祉大学　保健看護学科チームクレマチス）
話題提供者：小野寺明美（本吉絆つながりたい事務局）
瀧花典子（多機能型障害児通所支援事業所宙★りす）
宮崎　仁（川崎医療福祉大学臨床工学科）
指定討論者：小田桐早苗（川崎医療福祉大学医療福祉学科）
武井祐子（川崎医療福祉大学臨床心理学科）

自主シンポジウム９　9月1日（日）10：45～12：15　本館２階教室１２５５

知的障害のある自閉症児が安心してできる歯科受診について
―学校と三浦半島地域障害者歯科診療所との連携を通して―

企画者：髙尾政代（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
司会者：飯島杏那（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
話題提供者：加藤　敦（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
村上絵里佳（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
阿部英子（三浦半島地域障害者歯科診療所）
指定討論者：岡田祐輔（静岡県発達障害者支援センター）

自主シンポジウム 10　9月1日（日）10：45～12：15　3号館地下1階教室３１０１

構造化による支援の可能性を探る

企画・司会者：岡村絵美（株式会社ゆたかカレッジ）
話題提供者：中井百合子（TEACCHプログラム研究会山梨支部）
久松久美子（東京都立小児総合医療センター）
岡村絵美（株式会社ゆたかカレッジ）
指定討論者：三ケ田智弘（大分こども療育センター）

自主シンポジウム 11　9月1日（日）13：00～14：30　本館1階教室１１０１

ライフスキル指導の充実に向けて（2）

企画者：宮野雄太（横浜国立大学教育学部附属特別支援学校）
司会者：縄岡好晴（大妻女子大学共生社会文化研究所）
話題提供者：楠山友美（横浜国立大学教育学部附属特別支援学校）
高橋　幾（早稲田大学教育学部研究科教育基礎学専攻）
上原深音（(株）チャレンジドジャパン　ひゅーまにあ総合研修センター）
指定討論者：渡部匡隆（横浜国立大学）

自主シンポジウム 12　9月1日（日）13：00～14：30　本館2階教室１２５５

自閉スペクトラム症児の地域における連携システムの構築に向けて

企画者：前田宣子（黒部発達相談室）
司会者：菅原慶子（いわて発達障害サポートセンターえぇ町つくり隊）
話題提供者：菅原敬子（奥州市子ども発達支援センター）
鈴木則子（みらい幼稚園）
前田宣子（黒部発達相談室）
指定討論者：千田光久（星槎大学）
近藤裕彦（あさけ学園）

自主シンポジウム 13　9月1日（日）13：00～14：30　3号館1階教室３２０１

ICF（国際生活機能分類）を活用した療育支援事業

企画者：鈴木信恵（碧南市役所こども部福祉課）
司会者：安達　潤（北海道大学大学院教育学研究院）
話題提供者：鈴木信恵（碧南市役所こども部福祉課）
鈴木由記（親子の会カラフル）
吉川　徹（愛知県医療療育総合センター中央病院）
指定討論者：大夛賀政昭（国立保健医療科学院）

口頭発表

口頭発表①　8月31日（土）13：45～15：15　本館2階教室１２５３
座長：池田顕吾（玄洋会やまと更生センター）

1　連携の主導は誰の仕事？－ジハツカンのシコウ―支援の核にPECSを採用した事例から―
○臼杵哲平（放課後等デイサービスりーふ）

2　成人発達障害専門プログラムの効果について―ひきこもり外来を受診した事例に対する心理社会的支援―
○河合　純（ながおか心のクリニック精神保健部）

3　自閉症・強度行動障害を抱える患者の余暇活動への支援
○村井里華（国立病院機構やまと精神医療センター看護部重症心身障害（児）者病棟）

口頭発表②　8月31日（土）13：45～15：15　本館2階教室１２５４
座長：柿沼美紀（日本獣医生命科学大学）

4　コンサルテーションにおけるアセスメントの位置づけ
○澤　月子（（社福）南山城学園事務局・湊川短期大学人間生活学科）

5　A事業所におけるセクシュアリティ教育
○平木真由美（京都市立西総合支援学校）

6　発達障害の子どもの保護者からみた「障害受容」の意味
○山根佐智子（星槎大学校友会）
　三田地真実（星槎大学大学院）

口頭発表③　8月31日（土）15：30～17：00　本館2階教室１２５３
座長：伊藤健次（大阪芸術大学））

7　横浜市における発達障害者地域支援マネージャーの取り組み
○米澤巧美（横浜市発達障害者支援センター）

8　知的障害特別支援学校高等部における性に関する指導について
○門下祐子（早稲田大学大学院教育学研究科）
　梅永雄二（早稲田大学教育・総合科学学術院）

9　知的障害を伴うASD幼児の母親へのThe Cat-kitを取り入れた心理教育の試み
○角田正博（広島市こども療育センター医療部）
　諏訪利明（川崎医療福祉大学医療福祉学科）

口頭発表④　8月31日（土）15：30～17：00　本館2階教室１２５４
座長：高原朗子（福岡発達障害療育研究所）

10　特別支援学級に在籍する生徒へのスクールカウンセリングの意義と課題―発達障害特性をもつ生徒と保護者支援の観点から―
○松瀬留美子（常葉大学健康プロデュース学部心身マネジメント学科）
松瀬喜治（佛教大学教育学部臨床心理学科）

11　知的障害を伴う自閉症スペクトラム生徒の「数」の学習援助
○佐野杏奈（エムオーヒューマンサービス株式会社い～ま Crea 中川（放課後デイサービス）
小林重雄（小牧発達相談研究所）

12　初対面者との会話時における ASD 者の表情変化とうなずき
○鏡原崇史（広島大学大学院教育学研究科学習開発専攻）
若松昭彦（広島大学大学院教育学研究科）

口頭発表⑤　9月1日（日）10：45～12：15　本館2階教室１２５３
座長：東條吉邦（茨城大学）

13　自閉症療育におけるコロロメソッド②―重度知的障害を伴う自閉症者の発語学習―
○金子真奈美（社会福祉法人コロロ学舎）
芝崎悦子（社会福祉法人コロロ学舎）
長谷川正裕（社会福祉法人コロロ学舎）
金子尚弘（社会福祉法人コロロ学舎）

14　運動療育における行動変容について―運動 SST プログラムの ASD 児に着目して―
○上江昇一（NPO 星槎教育研究所）
渋谷　聡（星槎大学共生科学部）

15「就労による社会自立」を目指した教員のチームプレイ―ASD 特性に応じた支援と医療・福祉との連携―
○岸本和美（岡山県岡山瀬戸高等支援学校）

口頭発表⑥　9月1日（日）10：45～12：15　本館2階教室１２５４
座長：土岐顕吾（弘前市立第三大成小学校）

16　TTAP を活用した特性に基づく教育的介入方法―行動障害がある ASD 生徒への構造化による学習環境の設定―
○佐々木敏幸（東京都立港特別支援学校）
縄岡好晴（大妻女子大学共生社会文化研究所）

17　給食時のマイナートラブルから口腔機能発達不全と診断された事例
○内海明美（昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生部門）

18　自閉症スペクトラム傾向を持つ学生の第二外国語学習（英語）の効果的技法

○鈴木とも子（NPO 法人 Friends）

口頭発表⑦　9 月 1 日（日）13：00 ～ 14：30　本館 2 階教室１２５３
座長：近藤裕彦（あさけ学園）

19　エビデンスに基づいて保護者と取り組む発達障害児の早期療育モデル
○熊　仁美（NPO 法人 ADDS）

20　友達とのトラブルを頻発する、衝動性が高い自閉症児へのアプローチ
○尾嶋由香（社会福祉法人足羽福祉会子ども発達支援センターフレンズあすわ）
新井豊吉（福井大学大学院連合教職開発研究科）

21　自閉症療育におけるコロロメソッド①―強度行動障害を伴う自閉症児者の行動改善を目的とした歩行トレーニング―
○長谷川正裕（社会福祉法人コロロ学舎）
羽田雅幸（社会福祉法人コロロ学舎）
金子尚弘（社会福祉法人コロロ学舎）

口頭発表⑧　9 月 1 日（日）13：00 ～ 14：30　本館 2 階教室１２５４
座長：砥抦敬三（前帝京大学）

22　ICF 情報把握・共有システムを利用した多領域連携の実現により、自己感情への気づきが深まっていった ASD 小４男児の事例について
○萬屋きみ子（北海道大学大学院教育学院・NPO 法人 JYFLD 相談支援授業所「なえぼん」）安達潤（北海道大学）
渡邊隆史（NPO 法人 JYFLD）
桐田結佳（札幌市立中央小学校）

23　幼児期・学齢期・成人期のライフステージをつなぐ、発達障害の特性に特化した支援体制の構築―PECS や、構造化など支援を用いて―
○種村祐太（NPO 法人発達障害サポートセンターピュア）
檜尾めぐみ（NPO 法人発達障害サポートセンターピュア）
門眞一郎（NPO 法人発達障害サポートセンターピュア）

24　行政と民間クリニックとが協働した児童発達支援センターからの報告（２）―支援リソースの再構築による包括的で重層的な地域支援体制作りのために、センターが果たすべき役割―
○松村千里（平谷こども発達クリニック）
平谷美智夫（平谷こども発達クリニック）

ポスター発表

1日目（8月31日[土]）

1日目　8月31日（土）10：30～14：30　P-1～P-24　　インナー広場「さん・サン」
在席時間：奇数番号 11：30～12：30　偶数番号：12：30～13：30

P-1　自閉症者の図書館就労定着に向けた支援に関する縦断的研究
―就労1年目から就労5年目（5年間）におけるハードスキルとソフトスキルの変容を中心に―
○清水　浩（山形県立米沢女子短期大学社会情報学科）

P-2　特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある生徒の作業学習における自立活動の指導目標の明確化と指導の改善
○柳澤亜希子（国立特別支援教育総合研究所）

P-3　就労経験のあるASDの青年のコミュニケーション特性評価を通じた職業的課題の検討
―新版Ｆ＆Ｔ感情識別検査を用いた分析
○知名青子（障害者職業総合センター研究部門）

P-4　ASD患者における全身麻酔下歯科治療後の口腔内管理
○鳥居　孝（鳥居歯科医院）
　鳥居　慎（鳥居歯科医院）

P-5　自閉症者支援施設での歯科保健対策の一例―理容から臨床ヒント―
○鳥居ちえみ（鳥居歯科医院）
　鳥居　孝（鳥居歯科医院）

P-6　「気持ちポスター」を使った感情理解と表出の学習
―中度の知的障害があるＡＳＤの児童を対象にした実践報告―
○宮野雄太（横浜国立大学教育学部附属特別支援学校）

P-7　ワクワク学習教室での指導―自分の思いや考えを伝える―
○平松純子（帝京大学大学院教職研究科）
　藤井靖史（帝京大学大学院教職研究科・帝京大学医学部小児科）
　薄井聡子（帝京大学大学院教職研究科）
　山内まどか（帝京大学大学院教職研究科）
　森本尚子（帝京大学大学院教職研究科）

P-8　A児への行動論的アプローチによる自発行動の活性化
―チェックリストと手順カードを用いた荷物の片付けと着替えの指導を通して―
○田中名帆（神戸市立西落合小学校）
小林重雄（小牧発達相談研究所）

P-9　障害児の親が抱える困難に対するサポート環境
―新版 STAI（状態－特性不安尺度）データの分析から
○渡邊喜久枝（放送大学教養学部）
東條吉邦（茨城大学教養学部）

P-10　ASD の支援者が困難さを感じる行動的課題のタイプ
○小川博敬（指定相談支援事業所サポートにじ／岩手県立大学大学院社会福祉学研究科）

P-11　知的障害を伴う ASD 児のタブレットを用いた要求コミュニケーション支援
○奥村美音（早稲田大学大学院教育学研究所）
梅永雄二（早稲田大学教育・総合科学学術院）

P-12　視覚情報共有から深まる自己理解とその応用―『からだ地図』を土台として―
○よつばもこ（成人 ASD 研究会一般社団法人高槻ルーロー）

P-13　自閉スペクトラム症傾向とシェパード錯視の錯視量の関係
○小野島昂洋（早稲田大学大学院教育学研究科）

P-14　発達障害者の就労における支援者と企業との共通認識の相違に関する一考察
○濱本さやか（宮城障害者職業センター）
梅永雄二（早稲田大学教育・総合科学学術院）

P-15　言葉を有しているが言葉によるコミュニケーションが確立できていない軽度知的障害を伴う自閉症者への支援
○島中令子（NPO 法人 CCV　CCVEpic）
梅永雄二（早稲田大学教育・総合科学学術院）

P-16　行動療法の機能的アセスメントを用いた支援の実践
○徳永惇子（菊野病院総合リハビリテーション部）

P-17　自由時間の過ごし方の工夫が知的障害のある利用者の不適応行動の減少に及ぼす効果
○大島政貴（八王子福祉園サービス９係）

P-18　自閉スペクトラム症者の自律を支援する生活支援者の視点
○松山郁夫（佐賀大学教育学部）

P-19　自閉症スペクトラムのある学齢児に対するグラフィックレコーディングを活用した指導がコミュニケーションに及ぼす影響

○金井塚悠生（株式会社 LITALICO LITALICO 研究所）
本間美穂（株式会社 LITALICO LITALICO 研究所）

P-20　教育支援員としての今までとこれからについて

○狩山美鈴（中能登町立中能登中学校　特別支援）

P-21　自閉症のわが子の診断から親の療育的取り組み

○常山　亮（保護者）

P-22　カタトニア症状の見られた自閉症のある生徒に対する長期支援（1）
―臨床動作法の導入とその効果について―

○北村紗弥香（鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻）
古賀捷平（佐賀整肢学園からつ医療福祉センター好学舎）
井上雅彦（鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻）

２日目（９月１日[日]）

２日目　９月１日（日）10：30 ～ 14：30　P-24 ～ P-45　インナー広場「さん・サン」
在席時間：奇数番号 11：30 ～ 12：30　偶数番号：12：30 ～ 13：30

P-23　TEACCH Autism Program の介入セッションを参考とした病院での取り組みの考察
○小田桐早苗（川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科）
諏訪利明（川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科）

P-24　自閉スペクトラム症児・者のきょうだいへの支援について
○山田陽子（任意団体　おかやま SASA）
小田桐早苗（川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科）

P-25　カタトニア症状の見られた自閉症のある生徒に対する長期支援（2）
―行動問題への対応とコミュニケーション支援の効果―
○古賀捷平（佐賀整肢学園からつ医療福祉センター好学舎）
北村紗弥香（鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻）
井上雅彦（鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻）

P-26　生駒市ことばの教室の現状と今後の展望
○髙橋順治（奈良県生駒市立生駒小学校通級指導教室）

P-27　ASD の方へのｉＰａｄ実践―「えんぴつ」で僕の世界が変わった―
○吉井宏孝（社会福法人はるにれの里札幌市自閉症者自立支援センターゆい）

P-28　小集団での活動を通して、室内から屋外へ活動の場を広げた試み
○山縣奈美（株式会社 Prism）
和多田麻衣子（株式会社 Prism）

P-29　発達障害者の免許取得におけるソフトスキルの支援
○髙橋　幾（早稲田大学教育学研究科教育基礎学専攻）
梅永雄二（早稲田大学教育・総合科学学術院）

P-30　自閉スペクトラム症児に対する療育実践
○中嶋由希子（公益財団法人明治安田こころの健康財団子ども療育相談センター）
山藤由紀（公益財団法人明治安田こころの健康財団子ども療育相談センター）
新井利明（公益財団法人明治安田こころの健康財団子ども療育相談センター）

P-31　自閉スペクトラム症のある人の狭所通り抜けにおける身体運動

○井村咲子（(株）PCI　こどもねっとさっぽろこうさい）
安達　潤（北海道大学大学院教育学研究院）

P-32　自閉スペクトラム幼児に対する機能的コミュニケーション訓練
―親子おはなしスタートプログラムの開発―

○松本　好（株式会社 LITALICO）
大川真知子（株式会社 LITALICO）
稲田尚子（帝京大学）

P-33　知的に遅れのない発達障害児の幼児期から就学への移行支援―保護者にとって円滑な小学校接続を支える実践―

○石橋晃治（よこはま港南地域療育センター）
牛島智子（よこはま港南地域療育センター）

P-34　子どもの痛みの表出が養育者に与える影響－比較心理学の視点から－

○柿沼美紀（日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科）
財部盛久（南九州大学）
五十嵐一江（白百合女子大学）
紺野道子（東京都市大学）
上地亜矢子（クリニックプロップ）

P-35　河内長野市のサポートブック「はーと」をつかって共生社会をつくる街づくり

○土本由紀子（保護者：ピアはーと（サポートブックを拡げる親の会）
宮崎充弘（かざみどり相談室、特定非営利活動法人ほわほわの会）

P-36　自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発（15）
―小学校低学年：参加児の仲間意識を高めるためのスタッフの関わり方と遊びの工夫―

○鈴木ひかり（立命館大学大学院人間科学研究科）
藤田佳恵（立命館大学大学院人間科学研究科）
坂口龍也（立命館大学大学院人間科学研究科）
寺岡芽美（立命館大学大学院人間科学研究科）
松元　佑（立命館大学大学院社会学研究科）
荒木美和子（龍谷大学社会学部）
荒木穂積（立命館大学大学院人間科学研究科）
竹内謙彰（立命館大学産業社会学部）

P-37　自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発（16）
―小学校：仲間意識を高めるための「役割」を重視したプログラム作成の工夫―

○上仲晴菜（立命館大学大学院人間科学研究科）

朝倉みずき（立命館大学大学院人間科学研究科）
井出悠香子（立命館大学大学院人間科学研究科）
植木雪音（立命館大学大学院人間科学研究科）
井篠和之（立命館大学大学院人間科学研究科）
松元　佑（立命館大学社会学研究科）
荒木穂積（立命館大学大学院人間科学研究科）
竹内謙彰（立命館大学産業社会学部）

P-38　自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発（17）
―中学生・高校生：参加児の自主性を重視した創作活動の工夫―
○饗庭桃子（立命館大学大学院人間科学研究科）
浮田千紗子（立命館大学大学院人間科学研究科）
内田信之介（立命館大学大学院人間科学研究科）
佐藤友紀（立命館大学大学院人間科学研究科）
徐　曼（立命館大学大学院人間科学研究科）
竹内謙彰（立命館大学産業社会学部）
荒木穂積（立命館大学大学院人間科学研究科）
松元　佑（立命館大学社会学研究科）

P-39　知的障害特別支援学校中学部におけるプログラミング教育の実践研究（1）
―民間プログラミング教室と連携した授業の実施について―
○北山　開（株式会社 LITALICO LITALICO ワンダー事業部）
和田沙央里（株式会社 LITALICO LITALICO ワンダー事業部）
本間美穂（株式会社 LITALICO LITALICO 研究所）

P-40　知的障害特別支援学校中学部におけるプログラミング教育の実践研究（2）
―知的障害・発達障害のある中学生への指導とＩＴツール選択の工夫について―
○和田沙央里（株式会社 LITALICO LITALICO ワンダー事業部）
本間美穂（株式会社 LITALICO LITALICO 研究所）
北山　開（株式会社 LITALICO LITALICO ワンダー事業部）

P-41　知的障害特別支援学校中学部におけるプログラミング教育の実践研究（3）
―教育効果と教員・保護者の意識の変化について―
○本間美穂（株式会社 LITALICO LITALICO 研究所）
和田沙央里（株式会社 LITALICO LITALICO ワンダー事業部）
北山　開（株式会社 LITALICO LITALICO ワンダー事業部）

P-42　行動障害のある自閉症者に対する日中活動支援を振り返って
―Ａさんの担当職員に対する面接調査から―
○佐々木千枝（Good Job 奥州／岩手県立大学大学院社会福祉学研究所）

P-43　自閉症スペクトラム障害のある学生への支援

○一山幸子（西日本短期大学社会福祉学科）

P-44　自閉スペクトラム症児における色字共感覚の特徴

○井出春華（早稲田大学大学院教育学研究科）

ビジュアルブック 新刊

自閉スペクトラム症

ASDの君へ

ラクな気持ちになるためのヒント集

ジョエル・ショウル【著】
大石幸二【監訳】
● B5 判横長
本体 2500 円＋税

自分でできる気持ちの整え方

自閉スペクトラム症（ASD）のある子どもが、からだや気持ちを調整するためにできる簡単な方法を、ピクトグラムやイラストで示したガイドブック。ものすごく心配な気持ちの日でさえ、前向きに取り組むことを後押ししてくれるでしょう。

●本書の特長

- からだや気持ちをラクにするための簡単な方法がわかる
- イラストやマークがわかりやすい
- 困った場面やツライ状況をうまくやり過ごすためのヒントがたくさん
- ワークシート付き（コピーして使える）

カンファレンスで深まる・作れる
配慮を要する子どものための

個別の保育・指導計画

大石幸二【監修】 遠藤愛・太田研【著】
● B5 判変形／本体 1800 円＋税

具体的な事例を示し、チーム力を高めながら支援に生かすための方法を解説。本郷一夫先生推薦！

公認心理師・臨床心理士のための

発達障害論

新刊

インクルージョンを基盤とした理解と支援

大石幸二【監修】山崎晃史【編著】
● A5 判／本体 2800 円＋税

公認心理師・臨床心理士が現場で活用できる実践の書

発達障害の基礎理解として、診断論、障害論、原因論について整理し、さらに幼児期の育ちから成人期の就労まで、時間軸に沿った支援を解説。

自閉スペクトラム バディ・システム スタートブック

仲間づくりとコミュニケーションの支援

藤野博・森脇愛子【編著】袖山慶晴【イラスト】
● B5 判／本体 1600 円＋税

おとなと子どものマンツーマンではなく、集団形式でもない、特定の「相棒」と一緒に活動することを基本とする「バディ・システム」。2 人組での活動を通して、友だち・仲間関係を築いていくための支援方法を紹介。

誰でも使える教材ボックス

教材共有ネットワークを活かした発達支援

奈良県立奈良養護学校【編】
高橋浩・藤川良純・西端律子・太田和志・鴨谷真知子【著】
● B5 判／本体 2200 円＋税

〒 102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2
https://www.gakuensha.co.jp/

学苑社

TEL 03-3263-3817 FAX 03-3263-2410
info@gakuensha.co.jp

スヌーズレンって，なぁに？

それは、リラックスできる部屋。
あるいは、その刺激を受け、人々をアクティブにする世界。
―― スヌーズレンは、無限の可能性を秘めています。

ことばの意味

オランダ語でスヌーフレン「くんくんと匂いをかぐ」と、ドースレン「居眠り」からなる合成語で、「自分で確かめる・探索する」という意味と、「ゆったりする・リラックスできる」という意味を持ち合わせます。

スヌーズレンのはじまり

1970年代オランダ。ヤン・フルセッヘ氏（障がい児の教育者）とアド・フェアフール氏（セラピスト・芸術家）らにより、この活動が始まりました。当時、施設でほとんど寝かされているだけだった重度知的障がい者の「受け身的で刺激のない世界」を変えようと考え出されました。今では障がいのあるなしに関わらず、利用者の興味や意欲を刺激し、あるいはリラックスできる空間として世界中で広がっています。

まずは体験してみて！

出張体験できます

- スヌーズレン（ブラックルーム）の設置
- スヌーズレングッズの貸し出し
  当会が現地に出向き設置いたします（ご相談ください）

ショールームあります

常設展示しています ※ご予約をお願いします

予約専用ダイヤル：083-974-6331

営業時間：10時～18時
休 館 日：日曜・祝日
（土曜は不定休）

入場無料

きらめきの三笠館
BlaCKROOM & PRintSHOP

〒754－0002 山口市小郡下郷 2806 番地の 1

お気軽にご相談ください

特定非営利活動法人
スヌーズレンを普及する会
理事長／山根 文夫 TEL 090-1188-6598
事務局／三笠産業株式会社内
TEL 083-974-6331 FAX 083-973-1370

三笠産業株式会社
TEL 083-974-6331 FAX 083-973-1370
〒754-0005 山口県山口市小郡山手上町 1-10
snoeze@mikasasangyou.co.jp
www.mikasasangyou.co.jp/

北大路書房

〒603-8303　京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361　FAX 075-431-9393
http://www.kitaohji.com

ギフティッド［仮題］

ー2019年秋刊行予定ー　J. T. ウェッブ他著　角谷詩織・榊原洋一監訳　A5・約448頁・予価5200円＋税
高知能であるなど１つ以上の分野で並外れた才能を示すギフティッドは，発達障害や様々な精神疾患と「誤診」「重複診断」されることが少なくない。事例を豊富に取り上げ，類似する障害の特性と比較しながら，今後の健全な支援に向けた手引きとなる一冊。

「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援

ーチェックリストを活用した保育の支援計画の立案ー　本郷一夫編著　B5・96頁・本体1800円＋税　「気になる」子どもの行動の背景を理解するために開発された社会性発達チェックリスト。保育場面での幼児の行動に焦点を当てる。保育，発達支援の具体的な進め方を紹介。保育の支援計画の作成にも有用。保育者や巡回相談に携わる心理士の方に。

［三訂］臨床心理アセスメントハンドブック

村上宣寛・村上千恵子著　A5・336頁・本体2700円＋税　医療・保健・教育・福祉・司法・産業など様々な領域で心理職に期待されるアセスメント作業の際に利用しやすいよう内容を編集し，DSM-5に対応。実証的な臨床心理学を求める機運をベースに内容を構成。アセスメントの実場面で目的に沿って心理テストを選択し，結果を利用できるよう解説する。

シリーズ 心理学と仕事2 神経・生理心理学

太田信夫監修　片山順一編集　A5・176頁・本体2300円＋税　心的過程を脳の働きの産物として捉える神経・生理心理学。学習内容を概観し，脳の損傷部位と影響を受ける心的過程との関係，動物実験の意義と実際，特別支援教育での生体機能計測の重要性，犯罪捜査で用いられているポリグラフ検査の歴史や基礎，可能性を解説。産業界での応用も紹介。

臨床心理フロンティア 公認心理師のための「発達障害」講義

下山晴彦監修　桑原　斉・田中康雄・稲田尚子・黒田美保編著　B5・224頁・本体3000円＋税　現代臨床心理学を牽引するエキスパートによる講義を紙面で再現。講義動画と連携して重要テーマを学べるシリーズ。Part1では障害分類とその診断の手続き，Part2では心理職の役割，Part3では自閉スペクトラム症の理解，Part4ではその支援について扱う。

自閉症スペクトラム障害の子どもの親となったあなたへ

ー子育ての手引きー　L. アダムズ著　川合紀宗・若松昭彦訳　A5・232頁・本体2300円＋税　子育てに悩む保護者に向けて，確かな知識と，日々の暮らしの中で実際に役立つアイデアを提供。「行動はメッセージである」との信念のもと，家庭での環境調整，学校との連携，成人期への移行など，具体的に解説。「先輩」保護者の生の声も豊富に紹介。

発達心理学15講

高橋一公・中川佳子編著　A5・220頁・本体2200円＋税　公認心理師カリキュラムに準拠し，公認心理師試験出題基準を網羅。ヒトの誕生から死までの発達プロセスを，15の講義に分けてミニマム・エッセンスをまとめる。また，発達障害を扱う第９講を中心に，障害者支援法の改正，および新しい教職課程にも対応した。好評テキストの改訂版。

シリーズ 心理学と仕事15 障害者心理学

太田信夫監修　柿澤敏文編集　A5・184頁・本体2100円＋税　視覚障害，聴覚障害，学習障害，注意欠如・多動症，健康障害等，重度・重複障害も含め，障害種別の定義や心理特性，その支援のあり方を詳説。心理職に限らず，医療・保健，教育，福祉等，障害者にかかわる職に就く人へ研究と実践の最前線の知識を提供。現場の実践家が仕事内容も紹介する。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事〔全20巻〕

シリーズ監修　太田信夫

●A5判・約160～220頁・予価2000～2600円＋税

1　感覚・知覚心理学	2　神経・生理心理学	3　認知心理学	4　学習心理学	5　発達心理学
6　高齢者心理学	7　教育・学校心理学	8　臨床心理学	9　知能・性格心理学	10　社会心理学
11　産業・組織心理学	12　健康心理学	13　スポーツ心理学	14　福祉心理学	15　障害者心理学
16　司法・犯罪心理学	17　環境心理学	18　交通心理学	19　音響・音楽心理学	20　ICT・情報行動心理学

メールマガジン配信中●弊社ホームページからお申し込みください

事例でわかる 思春期・おとなの自閉スペクトラム症
当事者・家族の自己理解ガイド

大島郁葉 編著
大島郁葉，鈴木香苗 著

小さいころに自閉スペクトラム症と言われなかった当事者と家族のための、アセスメントや診断プロセスを分かりやすく解説した自己理解ガイド。

A5判 並製　240頁　本体2,800円+税

知的・発達障害における福祉と医療の連携

市川宏伸　編著

知的・発達障害児者が，どうしたら「社会に適応できるか」から,「住みよい社会になるか」を,福祉と医療の連携から展望する。

A5判 並製　240頁　本体3,200円+税

保護者と先生のための 応用行動分析入門ハンドブック
子どもの行動を「ありのまま観る」ために

井上雅彦 監修
三田地真実，岡村章司 著

発達障害をもつ子どもとの関わりで「イラッ」。そんな自分を責めたことはないですか? 本書のABAを通して問題を解決していきましょう。

B5判 並製　176頁　本体2,600円+税

思春期・青年期トラブル対応ワークブック

小栗正幸 著
特別支援教育ネット（制作委員会）

発達障害・愛着障害・被虐待経験――。配慮が必要な人へのさまざまなトラブルに対処する“虎の巻”

B5判 並製　200頁　本体2,400円+税

Ψ 金剛出版　〒112-0005　東京都文京区水道１－５－16　Tel .03-3815-6661　Fax.03-3818-6848　http://kongoshuppan.co.jp/　kongo@kongoshuppan.co.jp

どうしてかな? 理由の説明 学習絵カード
状況絵カード 185 X 130 mm
説明カード　130 X 92mm
両面 PP貼加工 定価:3,200円(税別)

教材の構成: 状況絵カード 32枚、説明カード 32枚、使用の手引き 大好評
飯塚 直美 作　武嶌 波 絵

「だれ?」「どこ?」などにはだいぶ答えられるようになったけれど、「どうして?」にはうまく答えられない。そんなお子さんたちが「どうして?」への答え方を学ぶ一助になることを願って作られました。

発達性協調運動障害 親と専門家のためのガイド
巻末に運動介入ワークブック付き
宮原資英 著　B5変型判 並製 104頁 定価1,600円(税別)

不器用、運動神経が鈍いなどといわれる子どもたちを支援し、問題を乗り越えていくために、どうしたらよいかをひも解こうとする基本図書

ねこは みんな アスペルガー症候群 / いぬは みんな ADHD

キャシー・フープマン著　牧野 恵 訳

あたたかく、ユーモアと洞察に富んだ両書は、みんなとはちがう子を育てる喜びとチャレンジを思い起こさせてくれます。それぞれ、アスペルガーや ADHDの人たちの尊厳、個性、そして可能性を感じさせてくれる1冊です。

あたたかな
まなざしと愛

かわいい猫と犬の写真集　プレゼントに最適!

各 195x195mm 正方形 並製　オールカラー72頁 定価1,600円(税別)

マンガ 奥田健次の出張カウンセリング
臨床心理士　A5判 並製 232頁　定価:1,300円(税別)
奥田健次 著　武嶌 波 漫画

自閉症の家族支援物語　家族がさまざまな問題や苦手なことに直面したとき、奥田先生が問題を解決します。

ガイド 壮年期のアスペルガー症候群
フィリップ・ワイリー著
河瀬真那 訳　吉濱ツトム 解説

大人になってからの診断は人生をどう変えるか　新刊　A5判 並製 216頁 定価:1,700円(税別)

保育園・幼稚園・子ども園での発達障害の評価ツール 保育・指導要録のための発達評価シート TASP
子どもの発達チェックに不可欠な7領域の評価
解説書　5部セット 本体価格 1,500円
記録用紙 20枚セット 本体価格 2,000円
解説書1部＋記録用紙 20枚セット2,300円

発達評価シート開発チーム　監修者 辻井 正次　開発責任者 伊藤 大幸　開発副責任者 浜田 恵　Transitional Assessment Sheet for Preschoolers

スペクトラム出版社　Tel: 03-5682-7169　Fax: 03-5682-7157　www.spectpub.com

◎書籍のご注文は、弊社に直接、または スペース96 あるいは amazon.co.jp にお申し込み下さい。

自閉症スペクトラムなどの発達に問題のある人の自立支援のためのチェックリスト

CLISP-dd発達検査 *Checklist for Supporting on Persons with Developmental Disorders*

監　修　小林重雄

ボトムアップ編（適応年齢　乳幼児～中学生）（所要時間　一人約５分）
トップダウン編（適応年齢　中学生～成人）（所要時間　一人約５分）

定　価　**チェックリスト**（A4判 2色刷）（12名分1組）4,500円
解　説　書（B5判 2色刷）3,100円　「ボトムアップ編」「トップダウン編」同じ定価です

自閉症スペクトラム児・者が、社会生活を円滑にするための読本。

社会自立への準備読本

監　修　小林重雄
著　者　多田裕夫
定　価　1,500円（B5判 4色刷）

自閉症スペクトラム児・者のタイプを把握し、指導することによって、その後の人生生活にプラスさせるために是非活用を。

重症児（者）・重度重複障がい児のムーブメント教育・療法プログラム アセスメント

MEPA-ⅡR *Movement Education and Therapy Program Assessment-II Revised*

（適応年齢　０歳～成人）

監　修　小林芳文・藤村元邦・飯村敦子・新井良保・當村茂登・小林保子
協力者　国際ムーブメント教育・療法学術センター
定　価　**アセスメントシート**（A4判 2色刷）（12名分1組）4,800円
実施と活用の手引（B5判 2色刷）3,500円

運動・感覚分野（姿勢・移動・操作など150項目）、コミュニケーション分野（言語・社会性・情緒など50項目）の精緻な評定ができるので、その子の発達状態を知り、育成の手順ができます。

CHEDY 保育者のための幼児用発達障害チェックリスト *Checklist for Developmental Disabilities in Young Children*

監　修　尾崎康子　（適応年齢　４歳～６歳）（所要時間　一人約５分）
定　価　**用　紙**（B5判 2色刷）（20名分1組）4,500円　**解 説 書**（B5判 2色刷）3,100円

保育中、発達が気になる子の原因を理解し、どのように指導したら良いのかを知るために開発したチェックリスト。日常、本人と接している先生なら簡単にチェックでき、対応の仕方も実例を挙げて紹介。

DESC 乳幼児社会的認知発達チェックリスト ー社会性のめばえと適応ー *Checklist for Development of Early Social Cognition*

監　修　森永良子・東　洋　（適応年齢　０歳６ヶ月～３歳５ヶ月）（所要時間　一人約５分）
定　価　**用　紙**（B5判 2色刷）（20名分1組）5,000円　**解 説 書**（B5判 2色刷）5,300円

乳幼児の社会認知の発達状態を調べて、個人の特性を理解することができる。

PRS ＬＤ児診断のためのスクリーニングテスト *The Pupil Rating Scale Revised Screening for Learning Disabilities*

原 著 者　Dr.H.R.Myklebust　（適応年齢　幼児 ～ 中学生）（所要時間　一人約10分）
日本版著者　森永良子・隠岐忠彦
定　価　**用　紙**（B5判 2色刷）（20名分1組）4,600円　**手 引 き**（B5判）2,900円

世界的に活用されているLD診断の検査。子どもを良く知っている教師なら簡単にチェックできる。「具体的な指導計画」を立てるのに最適。

内容見本ご希望の方は
FAXでお知らせ下さい
文教資料協会
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北2－13－15
TEL・FAX 03-5984-5792

子どもの「生」と現代社会

最新刊
応答する〈生〉のために—〈力の開発〉から〈生きる歓び〉へ
高橋勝著　新書・並製・二三二頁・一六〇〇円

子どもの生きられる空間—生・経験・意味生成
高橋勝著　四六・上製・二七二頁・二四〇〇円

流動する生の自己生成—教育人間学の視界
高橋勝著　四六・上製・二七二頁・二四〇〇円

子ども・若者の自己形成空間—教育人間学の視線から
高橋勝編著　A5・上製・三一二頁・二七〇〇円

文化変容のなかの子ども—経験・他者・関係性
高橋勝著　四六・上製・二四〇頁・二三〇〇円

現代世界の子どもたち　副田義也社会学作品集第Ⅳ巻
副田義也著　A5・上製・五〇四頁・四六〇〇円

児童の教育と支援—学びを見つめる
田中正浩監修・高塚原拓馬著　A5・並製・一六〇頁・二〇〇〇円

子どもの道草　居住福祉ブックレット⑦
水月昭道著　四六・並製・一〇四頁・七〇〇円

芸術が拓く子どもの創造性・可能性

西洋児童美術教育の思想
—ドローイングは豊かな感性と創造性を育むか？
要真理子・前田茂監訳　A5・上製・四四〇頁・三六〇〇円

芸術体験の転移効果—最新の科学が明らかにした人間形成の真実
C・リッテルマイヤー著　遠藤孝夫訳　A5・上製・一五二頁・二〇〇〇円

ハーバードプロジェクトゼロの芸術認知理論とその実践
—内なる知性とクリエティビティを育むハワード・ガードナーの教育戦略
池内慈朗著　A5・上製・五〇四頁・六五〇〇円

とがびアートプロジェクト
—中学生が学校を美術館にした
茂木一司編集代表　A5・並製・二六四頁・二四〇〇円

協同と表現のワークショップ【第2版】—学びのための環境のデザイン
茂木一司編集代表　A5・並製・二八〇頁・二四〇〇円

蕪村と花いばらの路を訪ねて
寺山千代子著　四六・上製・一二八頁・一六〇〇円

現代日本教育の総合的考察

最新刊
文部科学省の解剖
青木栄一編著　A5・上製・二九六頁・三二〇〇円

最新刊
塾：私的補習ルールの国際比較
M・ブレイ／O・クウォ著　森・早坂・佐久間・田中・高嶋・大和訳　A5・並製・一八四頁・二〇〇〇円

最新刊
いま、教育と教育学を問い直す
—教育哲学は何を究明し、何を展望するか
森田尚人・松浦良充編著　A5・上製・三四四頁・三二〇〇円

最新刊
教育的関係の解釈学
坂越正樹監修　丸山恭司・山名淳編　A5・上製・二八〇頁・二八〇〇円

現代学力テスト批判—実態調査、思想、認識論からのアプローチ
北野秋男・下司晶・小笠原喜康著　A5・上製・二七二頁・二七〇〇円

学力格差拡大の社会学的研究—小中学生への追跡的学力調査結果の示すもの
中西啓喜著　A5・上製・一七六頁・二四〇〇円

社会を創る市民の教育—協働によるシティズンシップ教育の実践
大友秀明・桐谷正信編　A5・並製・二七二頁・二五〇〇円

高等専修学校における適応と進路—後期中等教育のセーフティネット
伊藤秀樹著　A5・上製・三三六頁・四六〇〇円

越境ブックレットシリーズ（各A5・並製、続刊）

最新刊
⓪教育の理念を象る—教育の知識論序説
田中智志著　A5・並製・一六〇頁・一二〇〇円

最新刊
①知識論—情報クラウド時代の〝知る〟という営み
山田肖子著　A5・並製・一二〇頁・一〇〇〇円

社会と医療のはざまで

現代の自殺—追い詰められた死：社会病理学的研究
石濱照子著　A5・上製・二四〇頁・二八〇〇円

発達障害支援の社会学—医療化と実践家の解釈
木村祐子著　A5・上製・二四〇頁・三六〇〇円

精神科医が目指す近隣力再建　居住福祉ブックレット⑩
中澤正夫著　四六・並製・九六頁・七〇〇円

医療・福祉の沢内と地域演劇の湯田　居住福祉ブックレット⑰
高橋典成・金持伸子著　四六・並製・一二〇頁・七〇〇円

様々な学力層の学生をいかに主体的な学びに導くか

学習とパーソナリティ—「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね！」をどう見るか
【学びと成長の講話シリーズ②】
溝上慎一著　四六・並製・二四八頁・一六〇〇円

アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性【学びと成長の講話シリーズ①】
溝上慎一著　四六・並製・一八四頁・一〇〇〇円

アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換（9刷）
溝上慎一著　A5・並製・二〇八頁・二四〇〇円

主体的・対話的で深い学びの環境とICT
—アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成
久保田賢一・今野貴之編著　A5・並製・二四八頁・二三〇〇円

「主体的な学び」につなげる評価と学習方法
—カナダで実践されるICEモデル
S・ヤング／R・ウィルソン著　土持ゲーリー法一監訳

アクティブラーニング・シリーズ（各A5判）

監修　溝上慎一　全7巻　同時発売中（セット価一〇〇〇〇円）
学生・生徒の学習方法の転換のために、アクティブラーニングを具体的に進める全7巻のシリーズ、好評発売中。

❶**アクティブラーニングの技法・授業デザイン**
安永悟・関田一彦・水野正朗編　一五二頁・一六〇〇円

❷**アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習**
溝上慎一・成田秀夫編　一七六頁・一八〇〇円

❸**アクティブラーニングの評価**
松下佳代・石井英真編　一六〇頁・一六〇〇円

❹【改訂版】**高等学校におけるアクティブラーニング：理論編**
溝上慎一編　一四四頁・一六〇〇円

❺**高等学校におけるアクティブラーニング：事例編**
溝上慎一編　一九二頁・二〇〇〇円

❻**アクティブラーニングをどう始めるか**
成田秀夫著　一六八頁・一六〇〇円

❼**失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング**
亀倉正彦著　一六〇頁・一六〇〇円

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
http://www.toshindo-pub.com
東信堂
TEL03-3818-5521　FAX03-3818-5514
Email tk203444@fsinet.or.jp
［価格税別］

日本自閉症スペクトラム学会第 18 回研究大会

企業ご芳名

広告・展示

株式会社　学苑社
株式会社　北大路書房
株式会社　金剛出版
文教資料協会
株式会社　スペクトラム出版社
三笠産業株式会社
株式会社　東信堂

（五十音順・敬称略）

本大会を開催するにあたり、
上記の団体・企業様にご支援をいただきました。
ここにご芳名を記し、感謝の意を示します。

令和元年 8 月
日本自閉症スペクトラム学会第 18 回研究大会
会長　宮崎　眞
日本自閉症スペクトラム学会　会長　市川　宏伸

日本自閉症スペクトラム学会
第 18 回研究大会実行委員会

大会会長：宮﨑　眞（明治学院大学）
大会副会長：小林潤一郎（明治学院大学）
学会会長：市川宏伸
大会顧問：野村東助（元東京学芸大学）
大会実行委員：安達　潤（北海道大学）　有澤直人（江戸川区立本一色小学校）　五十嵐一枝（白百合女子大学）　伊藤政之（日本大学）　石坂　務（横浜市立本郷特別支援学校）　井上雅彦（鳥取大学）　内山登紀夫（よこはま発達クリニック）　梅永雄二（早稲田大学）　梅原泰代（横浜市教育委員会）　大内玲子（水沢第一高等学校）　大屋　滋（国保旭中央病院）　落合　登（NPO 法人日本ポーテージ協会）　柿沼美紀（日本獣医生命科学大学）　神尾陽子（お茶の水女子大学）　川﨑葉子（むさしの小児発達クリニック）　小林重雄（小牧発達相談研究所）　是枝喜代治（東洋大学）　近藤裕彦（あさけ学園）　篠田晴男（立正大学）　園山繁樹（島根県立大学）　ソルト（会社員）　高木一江（小児療育相談センター）　高村哲郎（青陽須磨特別支援学校）　西中一夫（墨田区立中和小学校）　長谷川安佐子（新宿区教育委員会）　藤原義博（元創価大学）　本田秀夫（信州大学）　前田宣子（黒部発達相談室）　松井賢仁（江戸川区立大杉小学校）　松岡勝彦（山口大学）　松田裕見子（保護者）　水野　浩（世田谷区発達障害相談・療育センター）　山田登美子（神奈川県立瀬谷養護学校）　柳澤亜希子（国立特別支援教育総合研究所）　吉川　徹（愛知県医療療育総合センター中央病院）
大会事務代表：砥抦敬三（元帝京大学）　計野浩一郎（武蔵野東教育センター）
大会事務局：千葉　一進（社会福祉法人岩手ひだまり会）
大会事務局員：大久保道子（武蔵野東教育センター）　小出敬一（東洋大学大学院文学科教育学専攻）　寺山千代子（星槎大学）　東條吉邦（茨城大学）　平野敏惠（東京医薬専門学校）

実行委員、事務局の方々には、査読、プログラム編集、抄録集、大会会場のことなどで大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

令和元年 8 月

日本自閉症スペクトラム学会第 18 回研究大会プログラム

編集　日本自閉症スペクトラム学会第 18 回研究大会実行委員会
発行　第 18 回研究大会事務局　日本自閉症スペクトラム学会事務局内
〒 273-0866　千葉県船橋市夏見台 3-15-18
ＴＥＬ：047-430-2010　ＦＡＸ：047-430-2019

制作　株式会社　東信堂

ご案内

◆入会手続き

日本自閉症スペクトラム学会への入会を希望される方は、入会申込書（PDF：http://www.autistic-spectrum.jp/files/lib/4/53/201611161547095301.pdf）を印刷して必要事項を記入の上、学会事務局へ郵送または FAX してください。日本自閉症スペクラトラム学会 HP の入会申込フォームからもお申し込みになれます。

日本自閉症スペクトラム学会事務局
〒 273-0866　千葉県船橋市夏見台 3-15-18
TEL：047-430-2010 ／ FAX：047-430-2019　E-mail:shikaku@autistic-spectrum.jp

申し込みが受理されましたら、最新号の会報および学会費振込用紙をお送りしますので、学会費の納入をお願いいたします。

学会費は 7000 円、但し、学生及び自閉症者本人は、4500 円となります 。

◆名簿訂正の手続き

住所や勤務先などの変更がありましたら速やかにお知らせください。名簿訂正申込用紙（PDF：http://www.autistic-spectrum.jp/files/lib/4/54/201611161548092519.pdf）を印刷して必要事項を記入の上、上記の学会事務局へ郵送または FAX してください。

または、日本自閉症スペクラトラム学会 HP の名簿訂正フォームに記入の上、送信していただいてもけっこうです。